

救急救命活動

一命を守る大切な時間

「救急車を呼んだのになかなか出発しない」そんな疑問を持ったことはありますか。

救急車が停まっている時間、車内では「命を守るために準備」が行われています。救急車は現場でどのような対応をしているのか。潮来消防署 指導救急救命士の宮崎さんにお話を伺いました。

活動につながることを大切にすることを命を守る急救活動を考えています。



救急車 到着から搬送までの流れ

1 状況確認・情報収集

到着後、まず傷病者の状態を詳しく確認します。

適切な治療につなぐため、次のような対応をします。

- ・初期対応、基本情報や症状、病歴等の確認
- ・三次救急病院※1やドクターヘリが必要かの判断等
- ※状況により、救急車と消防車が同時に出動する場合があります。救急車のみで搬送ができない場合や救急隊の活動補助を行うためです。

※1 命に関わる重篤な患者を受け入れる高度救急医療機関



2 搬送先の選定

傷病者の症状に適した医療機関を選定します。

市内外の病院と連携し、必要に応じて県外の医療機関へ搬送する場合もあります。かかりつけ医が他県にある場合や、症状によっては適切な治療を受けるため県外や遠方の病院へ搬送することもあります。鹿行管内に三次救急病院がないため、夜間や休日は特に遠方の病院となる可能性が大きくなりますが、病院が見つからない事により、搬送されないことは決してありません。必ず医療機関と連携し、最善の搬送を行っています。



3 応急処置



応急処置を行います。必要に応じて、医師とオンラインでつなぎ、病院で行う治療に近い処置（特定行為）を救急隊が実施します。（AED、点滴、アドレナリン投与、気管挿管など）

走行中には行えない特定行為もあるため、停車しなければなりません。また、病状によっては搬送よりも処置を優先する場合もあるため、救急車がなかなか出発しない原因のひとつとなります。

4 搬送開始



準備が整い次第、速やかに病院へ搬送します。

特定行為を行うため、搬送中に停車する場合もあります。また、病状によっては、早期搬送より特定行為の処置を優先する場合もあります。

救急医療を守るために

患者さんが多い場合や、病院が混み合っていると、受け入れが難しくなることがあります。本当に救急医療が必要な方へ医療を届けるため、救急車の適切な利用にご協力ください。

救急車を呼ぶか迷ったときは、下記相談窓口へご相談ください。

#7119(救急相談窓口) / #8000(小児救急相談)



市民のみんなが出来ること

症状を正確に伝える

救急隊員が知りたい情報です。

・氏名 ・生年月日 ・性別 ・病歴

・お薬の処方歴 ・病院の受診歴

・かかりつけ医

「潮来市救急医療情報シート」

基本情報や持病、緊急連絡先などを救急隊に伝えることができるシートです。日頃からの備えとしてご活用ください。

※潮来市役所 高齢福祉課にてお渡ししています。



搬送時に家族がいない、意識がないなどで本人の情報を伝えることが難しい際、マイナ保険証で医療情報を確認する事が、治療の助けになる場合があります。確認できるのは、治療に必要な情報のみです。個人情報は厳重に管理されていますので、安心してください。



「アラートライバルコール」について

通報後、救急車が現場に向かう途中で、症状の詳細を確認するため救急隊員から再度連絡する場合があります。着信があった際は、対応をお願いします。

※救急隊の携帯電話から連絡があります。

あなたを守るマイナ救急

救急車が停まっている時間も、命を守るために欠かせない時間です。市では、市民の健康を守る体制づくりを進めています。正しい理解と日頃の備えが、あなたや大切な人を守ります。

